

**令和元年度 事務事業総点検シート(1)**  
**[平成30年度事務事業]**

<b>一般会計</b>		<b>事務事業分類</b>	<b>簡易点検</b>
<b>事務事業名</b>	重度障害者入院時コミュニケーション支援事業	<b>シート番号</b>	A 一般事務事業
<b>担当部署名</b>	健康福祉 局 障害福祉 部 障害者支援 課	<b>評価責任者(課長名)</b>	増田

**Ⅰ. 基本情報**

<b>基本情報</b>	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	1	暮らしの確かな安全・安心を確保します	後期実施計画の位置付け	
			施策	3	障害者等が自分らしく輝いて暮らせる地域社会の実現	無	
	2	事業開始年度	平成 22 年度		終了(予定)年度	— 年度	
	3	根拠法令等 (法令、条例、規則、要綱等)	障害者総合支援法第77条第1項第2号、堺市重度障害者入院時コミュニケーション支援費の支給に関する要綱				
	4	関連計画	第4次堺市障害者長期計画、第5期堺市障害福祉計画				
5	事業実施の経緯	重度の障害のために入院時にコミュニケーションがとれない障害者の病状や希望を医療スタッフに伝え、的確な医療が受けられるよう地域生活支援事業として平成22年度から実施。 障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業(任意事業)である。					

**Ⅱ. 事業概要**

<b>事業概要</b>	6	事業の実施主体 (誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input checked="" type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象 (誰を、何を対象としているのか)	重度の身体障害者・知的障害者・精神障害者・障害児			
	8	事業の目的 (どのような状況にしたいのか)	障害が重度であっても的確な医療が受けられるようにし、地域生活の継続が可能になることを目的とする。			
	9	事業内容 (スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	入院した際に、入院前にサービスを提供していた指定障害福祉サービス事業者(訪問系)や登録していた移動支援事業者から、入院前と同じヘルパーをコミュニケーション支援員として派遣し、その対価をサービス提供事業所に支払う。			
	10	直接実施以外の主な支出先	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( )			

**Ⅲ. 投入量**

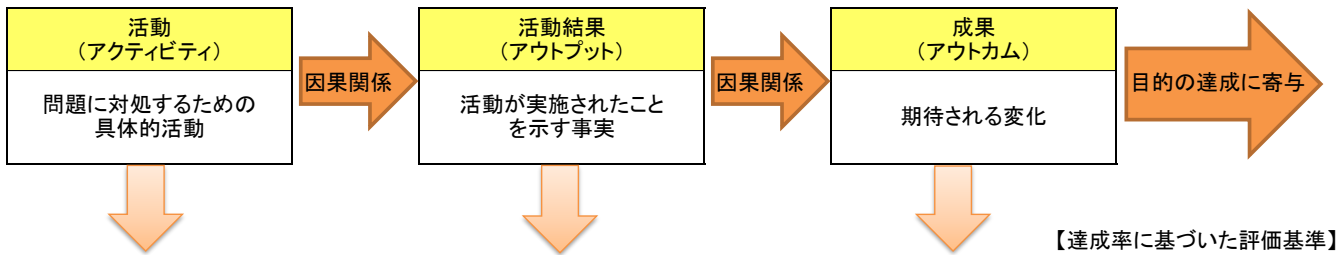
	項 目	単 位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
<b>事業コスト</b>	11 事業費 (a)	千円	5,601	7,350	3,933	4,366	
	主な事業費内訳	扶助費	千円	5,601	7,350	3,933	4,366
			千円				
			千円				
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円				
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
		市債	千円				
		その他( )	千円				
		一般財源	千円	5,601	7,350	3,933	4,366
12	人件費 (b)	千円	820	820	820	810	
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	6,421	8,170	4,753	5,176	

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	重度障害者入院時コミュニケーション支援事業	シート番号	11-145
-------	-----------------------	-------	--------

### Ⅳ. 評価(測定・分析)》

#### ロジックモデルの考え方



[14]平成30年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

#### 【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

#### 事業の活動内容や成果

		平成30年度実績						
活動実績と成果	14	<p>重度障害者が入院した際に、入院前から利用しているヘルパーをコミュニケーション支援員として1,079回、延べ127人に派遣した。このことにより、重度の障害のために意思疎通に支援が必要な人が、病状や希望を医療スタッフに伝え、的確な医療が受けられる環境を整えた。</p>						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		サービス提供回数	回	目標値	—	—	—	—
				実績値	1,335	2,073	1,079	—
				達成率	—	—	—	—
				評価	—	—	—	—
	算出方法・設定根拠など		サービス提供回数(目標値を設定していないのは、本事業は要件を充足すれば対象者へサービスを提供する制度であり、その事業の特性上、数値化した目標の設定は困難であるため。)					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
		利用者数	人	目標値	—	—	—	—
				実績値	165	185	127	—
達成率				—	—	—	—	
評価				—	—	—	—	
算出方法・設定根拠など		延べ利用者数(目標値を設定していないのは、本事業は要件を充足すれば対象者へサービスを提供する制度であり、その事業の特性上、数値化した目標の設定は困難であるため。)						

#### 業績の分析

	<p>目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)</p>
17	<p>平成30年度は延べ利用者数、サービス提供回数ともに減少している。これは、平成30年4月に障害支援区分6で、重度訪問介護サービスの支給決定を受けている者は、入院時であっても重度訪問介護サービスを引き続き受けることができるよう、国の制度改革が行われたためである。上記該当者以外の利用者数は、引き続き横ばい傾向である。</p>

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。